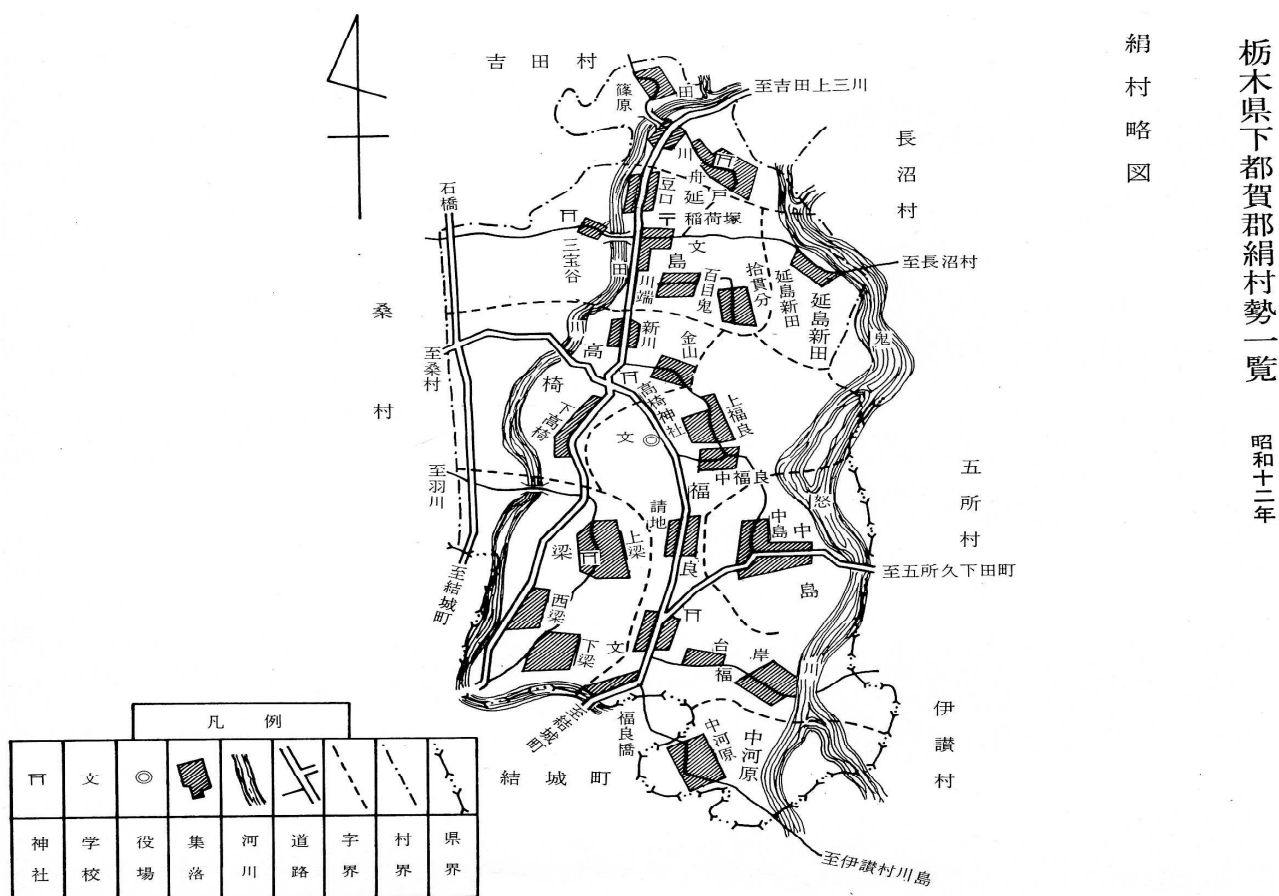


地域の歴史④ 近代

1868年（明治元年）4月、明治新政府は政体書を出し、新政府が直轄地にした旧幕府領地（天領及び旗本知行地）に府・県を置くことになりましたが、このとき、学区内の福良村、下福良村、上高椅村、中高椅村、下高椅村、中島村は、周辺の村々とともに真岡県（のちに日光県）に属することになりました。その後、1871年（明治4年）の廃藩置県により、日光県から栃木県になりました。1874年（明治7年）には、福良村と下福良村が合併し福良村、1876年（明治9年）には上・中・下高椅村が合併し高椅村となり、1889年（明治22年）4月に町村制が施行され、福良村、高椅村、中河原村、梁村、田川村、延島村、延島新田を併せ、絹村が誕生し、村役場は福良（現在の福良小のプール付近）に置かれ、木造2階建ての庁舎が建てられました。この木造2階建て庁舎は、第二次世界大戦後に新しく建て替えられた際に、近くの民家に移築されました。



本校現存最古の卒業写真（明治34年3月） 旧絹村役場庁舎（大正9年撮影） 建替後の庁舎（昭和42年撮影）



旧絹村の地図 出典「小山市史・史料編 近現代Ⅱ」より